

## 税金は助け合い

沖縄県立名護高等学校 3年 岸本 華

今年の一月一日。テレビをつけると流れてきた能登半島地震のニュース。日本中に衝撃を与えた。そんな中テレビに映し出された自衛隊による救助活動の様子に母と私は感心した。「自分の身も危なくなるかもしれないのにわざわざ現地に行くなんてすごいね」「ほんと感謝しかないね」自衛隊の立派な姿に日本っていいなと思ったのを覚えている。

税金とは、国や地方公共団体からいろいろな公共サービスを提供してもらうための資金を、国民から集めることで、その税金の中から、国家公務員や地方公務員などの給料も支払われている。調べていくとこのことに対し、「税金泥棒」などとひどい言葉を見かけた。私はふと母との会話を思い出した。何か起こったら真っ先に駆けつけてくれる自衛隊。他にも公務員の職種の一覧になくはない職業が並んでいた。公務員のおかげで今の日本は成り立っているのではないか。そう思うほどに公務員の存在は大きなものだった。

まず大前提として、公務員なくしては、公共のサービスを受けることができない。消防署や救急車などの、施設や設備があるだけでは、私たちに何ももたらしてくれない。そこで働いてくれる存在は必要不可欠である。そう考えると、そこに税金が使われるのは妥当だと思う。公務員のために税金を納め、公務員はそれに見合う仕事をし、私たちに公共のサービスを提供してくれる。この仕組みが成り立っているから、受けることのできる公共のサービスがほとんどだ。海外では基本有料で高い金額で設定されている救急車は、日本では、電話一本ですぐに救急救命士の方々が駆けつけてくれる。憲法で定められている義務教育も、日本全国の子どもたちが義務教育期間の九年間、授業料を徴収されずに教育を受けることができる。他の国と比べて犯罪率が少なく、治安のよい国となっているのは、警察や司法などの役割が果たされ、日本全国に配属された警察官の方々が、人々が安心して暮らせるように、犯罪の防止や交通安全の確保などをしてきているから。このような、医療、教育、警察や消防などのサービスを受けることができるのは、他にもたくさんの公務員の方々がいろいろな場所で、私たちの快適な暮らしを守るために働き、日本の国民が税金を納めてくれているからだ。

今までの税金のイメージは、お金をとられることからあまりよい印象はなかったけど、税金について学ぶことで、私はこんなにも税金や公務員の方々にお世話になっていて、税金を納めてくれている方々のおかげで安心して生活が送れていることに気づくことができた。自分が払った税金が誰かのためになっている。この助け合いの精神の上で、税金の仕組みが成り立っている。税金は考え方を変えることで、なんだかすごく優しいものに感じる。私はこれから税金を納めるとき、自分のため、誰かのためという気持ちで、税金を納めていこうと思う。